

2023年 学生部(全学学生委員会)(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)	CHECK(評価)	ACITON(次への改善)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p> <p>【目標】 メンタルサポート体制の強化 【具体的な方法】 学生相談室、メンタルサポートハンドブックの教職員・学生周知の強化、外部相談員の利用 【KPI】 保健管理委員会での相談室報告内容</p>	<p>D:計画を実行しその効果を測定する。</p> <p>実施状況(実施率)</p> <p>70%</p>	<p>C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。</p> <p>評価</p> <p>保健管理委員会資料</p>	<p>A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる</p> <p>相談室の体制的な課題(相談件数の増加や相談内容について教員学科へのつなぎ方)が存在するため、引き続きメンタルサポート体制の強化を目標とする。次年度より義務化される合理的配慮の対応について検討していく</p>
<p>【目標】 学生生活に関して、学生がさまざまな被害に遭わないための対策を強化 【具体的な方法】 さまざまなハラスメントに関する啓発活動の実施 マルチ商法やSNS利用の注意点を喚起する フェンダーに関して加害・被害者となる学生を出さない 【KPI】 相談数の減少</p>	<p>70%</p>	<p>今年度、相談室との連携においては、ハラスメントやLGBTQに対する大きな問題はなかったと思われる。しかし一部教員と学生によるコミュニケーションのストレスが認められた。 マルチ商法とSNSトラブルは、経営学部では生じなかった。外国語学部ではトラブルに発展しそうな案件もあり、学生・保護者と面談を行い対応した。</p>	<p>ハラスメント相談対応記録</p> <p>・ハラスメントについては、これまで同様に相談室との連携を強化する。LGBTQの問題については、教員から対応に苦慮するという声を耳にするようになっており、まずは情報や事例を収集することが必要である。 ・SNSトラブルは高校で周知されているはず。マルチ商法の危険について、学生ガイダンスで啓蒙する。</p>
<p>【目標】 障がい学生支援に関する連絡委員会の運用開始 【具体的な方法】 障害学生支援体制の構築として、「合理的配慮」の内容を学生の将来に向けた長期展望の観点から具体化する。また、あらたに設けられた規程の運用に向けて委員会から提案していく。 【KPI】 合理的配慮申請数</p>	<p>80%</p> <p>本郷ふじみ野キャンパスでの合理的配慮者数29名</p>	<p>・学生からの訴えを聞き取りつつ、学科毎に合理的配慮を踏まえて、学生対応が出来る環境が徐々に整いつつある。 ・エレベーターの使用マナーについて障がい学生からは配慮を求める声があがっている。 ・サポートを必要とする学生に対する配慮を促すポスターのデジタルデータは使われなかった。 ・適切な人員で連絡委員会を実施し、各キャンパス、各学部での有益な情報交換が行われた。</p>	<p>・各学科で生じている事例を共有できる場がまだまだ少ない。運用の中で支援体制のさらなる見直しをしていく必要がある。各学科内の講義内で合理的配慮への理解促進を検討する。 ・被支援者からヒアリングを行いながら、学生の他者への配慮、マナーについて周知を行う。事例として次回連絡委員会でも共有を行う。 ・CTRのパソコンにログイン時に表示されるメッセージは、現状、図書館に関するものがほとんどである。1年間のうち7日間ぐらいは、Teamsの学生委員会チームにアップ済みの配慮を促すメッセージを表示する。</p>
<p>【目標】 学生が安心して安全な学生生活を送るための支援体制の拡充とその周知を図る。 【具体的な方法】 課外活動の加入促進と、学生の居場所・交流づくり 新入生特別研修による交流促進。コロナ禍で培った動画研修などは鋭意活かす。 【KPI】 不安や悩みの相談先(誰に相談していいかわからない、相談できる人がいない)の減少 *学生生活に関する意識調査</p>	<p>70%</p> <p>研修を通して新しい友人ができた89%(経営学部)</p>	<p>・ふじみ野キャンパスでは、新入生特別研修や課外活動についてはほぼ対面での活動に制限がなく実施した。学生のコミュニケーションの取り方もコロナ禍以前に戻りつつあるが、途中で勝手に帰ってしまう学生がいたり、交流面をおろそかにする傾向が出てきていると危惧している。 ・学生生活意識調査では人間・保健両方とも将来の進路・学業の悩みがほとんどであった。 ・外国語学部の新入生特別研修ではTGQ訪問参加者からのアンケート結果は満足度の高い結果となった。 ・Teamsチャットで経営学部新入生の相談がありチャットで回答した結果、納得してもらえた。 ・経営学部の新入生特別研修では、来年度もチーム分けは初年次ラボのクラス分けを待たずに男女比が半々になるようにチーム分けをした方が良い。「チーム内に同性がわらず友人ができなかった」というアンケート結果があった。</p>	<p>・ふじみ野キャンパスでは、コロナ禍において学生同士や教員との間のコミュニケーションがうまく取れなかったこともあり距離ができていたと考えられるが、今年度は昨年度に比べより活動に制限が少なくなり、コロナ禍のコミュニケーションの問題は解決しているように感じる。 ・TeamsチャットのAIボットをもっと学生に使ってもらうために、使ってみたくなるように告知する。 外国語学部の新入生特別研修ではガイダンス期間中の新入生への負担になりすぎず、英語学習モチベーションアップ、友人作りに効果的な内容を検討する。 ・経営学部の新入生特別研修では、パワーポイント送り担当の職員が、持ち場を離れざるを得なくなり、次の話者のパワーポイントに切り替えられない事態が発生した。仁愛ホールの経営学部パワーポイントを操作する職員が1人しかいないのは危険。長丁場になることを勘案すると、2人体制が望ましい。</p>

2024年 学生部(全学学生委員会)

PLAN(計画)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p> <p>【目標】 メンタルサポート体制の強化、配慮申請内容の取り扱いに関して検討する。 【具体的な方法】 学生相談室、メンタルサポートハンドブックの教職員・学生周知の強化、外部相談員の利用、連絡委員会の充実 【KPI】 保健管理委員会での相談室報告内容、配慮申請数(教務との連絡による、連絡委員会報告数)</p>
<p>【目標】 多様な学生に対する配慮の精神を全学生、全教員へ浸透させる。 【具体的な方法】 学生と教員のコミュニケーション充実、LGBT・ハラスメントに関する啓発活動の実施 【KPI】 実態把握数(調査・相談等)の減少</p>
<p>【目標】 障がい学生支援に関する連絡委員会の体制を検討して、活動する。 【具体的な方法】 合理的配慮の具体的な例を共有するための仕組み作り 連絡委員会体の規程改訂 【KPI】 合理的配慮申請数</p>
<p>【目標】 学生が安心して安全な学生生活を送るための支援体制の確立、学生への周知を図る。 【具体的な方法】 新入生特別研修での学科内親睦・交流促進、学生の居場所づくり・交流の場について検討し、早期の友人作りを促進させる。 課外活動の周知・加入促進。 【KPI】 不安や悩みに対する相談先がわからない学生の減少：学生生活に関する意識調査で不安を持つ学生数20%以下</p>

2023年 学生部(全学学生委員会)(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)	CHECK(評価)	ACITON(次への改善)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p> <p>【目標】 学生の生活に必要な経済的支援を行うとともに、学生の経済的観念を醸成する。 【具体的な方法】 奨学金情報の収集、整理、発信 文化教養講座でのFP講座 【KPI】 除籍数(率)の減少</p>	<p>D:計画を実行しその効果を測定する。</p> <p>実施状況(実施率)</p> <p>100%</p> <p>・奨学金情報を一元化し、大学ホームページからのリンクにより整理し、学生の情報入手利便性を高め、いつでも必要な手続きや募集中の奨学金情報を入力できるようにした。各種奨学金について、学生との面談等のスケジュール・締切を一覧表で時系列に提示された。また、学生に対して、都度B'sLINKによる配信にて情報提供を行った。 ・問い合わせ先もアクセスしやすいように明記された。 ・文化教養講座でのFP講座は実施された。</p>	<p>C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。</p> <p>評価</p> <p>退学率については、減少傾向にあった。 人間学部:3.59%(2022年度)→2.64%(2023年度1月時点) 保健医療技術学部:3.63%(2022年度)→1.13%(2023年度1月時点) 外国語学部:2.2%(2022年度12月)→2.0%(2023年度12月時点)</p>	<p>A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる</p> <p>HP奨学金ページ 委員会会議資料、退学率</p> <p>・B's linkを見ないと言う学生が増えてきており学生へのタイムリーな情報提供が難しくなっている。奨学金関連は個人情報もありTeams利用は慎重にならざるを得ない状況がある。クラスアドバイザーの協力を得てアナウンスするなど工夫が必要である。</p>
<p>【目標】 学生会(部・同好会)等課外活動の活性化 【具体的な方法】 学生会を支援し、新入生歓迎会等による部・同好会の入部促進 【KPI】 部・同好会入会数の増加</p>	<p>100%</p> <p>・新型コロナウイルスが落ち着いてきているため、感染対策を徹底しながら、対面でのイベントを企画・実施した。 ・新入生歓迎会では、課外活動への参加促進と学内の居場所確保を目的に実施時期を早期に設定するなど、以前と実施方法を変更しながら学生自身が工夫して実施した。 ・世界禁煙デーイベント、七夕イベントも実施した。各イベント参加者を増やす工夫を学生が考え実施した。 ・4月にキッチンカーを配置したクラブ・委員会の説明会を実施した。ソダックスの売上に影響がでにくい時刻・メニューでのキッチンカーの配置を提案した。</p>	<p>学生委員会資料、部員数一覧</p> <p>・新入生歓迎会では、課外活動への参加促進と居場所確保を目的に実施時期を早期にするなど、イベントの実施形式を工夫して実施している。新入生歓迎会の後に学生証配布の時間構成であったことから友人作りなど交友関係を広げる場ともなった。課外活動への参加の促進と交友関係拡大の効果が得られる結果となった。 ・キッチンカーを誘致することによって、キッチンカーがなかった場合と比較して、クラブ、委員会への新入生の加入率が高くなったと推測できる。学生食堂企業からキッチンカーに関するクレームはなかったと推測できる。 ・本郷部員数:637名→697名(109%UP)</p>	<p>・引き続き、新入生歓迎会での課外活動への参加促進や入部促進を計画していく。 ・会の雰囲気作りも重要であり、歓迎ムードの演出のため、掲示物や教職員参加を工夫していく。 ・各団体、委員の参加を促し、相談ブースの設置も引き続き実施をしていく。</p>
<p>【目標】 学園祭を活性化し、学生の活動を地域社会に示す。 【具体的な方法】 出席促進、参加促進のための支援 地域に根ざした活動の強化 実行委員会の主体性の重視、学生の満足度向上 【KPI】 来場者数、出展による参加者数の増加</p>	<p>100%</p> <p>・対面での実施を行う。関係各所と連携をとり、参加団体や来場者数が増えるように工夫する。 ・文京祭のオープニングで学生委員会委員長が挨拶するという要請を受け、承諾した。 ・外国語学部・経営学部両委員長が文京祭のオープニングに出席した。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、あやめ祭はオンラインで開催されていたが、昨年度は3年ぶりの対面実施を行った。 ・学生サミットに経営学部委員長が参加し、学生から要請されてコメントした。</p>	<p>学生委員会 あやめ祭報告資料 第59回文京祭 来場者数・アンケート結果</p> <p>・対面開催として、昨年度よりも更に内容の検討を行い、来場者数も増し、様々な問題や困難な部分がありつつも、多くの工夫を行い無事に終了することができた。 ・4年ぶりの2日間対面開催であったが大きな事故もなく終了し、参加者数も昨年度より増加がみられた。また他大との交流など大きな成果があった。 ・文京祭参加者数2145名(2022年1日開催910名) ・あやめ祭参加者数 10月21日(土)998名 10月22日(日)1045名 合計2043名 約2050名 ※2022年来場者約890名</p>	<p>・来年度も対面開催で計画しているが引き続き開催について検討する。あやめ祭実行委員の人数が減少していることから、人員の増加を目指す。 ・様々な対策を講じながら参加者・来校者の増加を目指していけるように広報活動等の体制も整える。あやめ祭での学生の参加率の増加、集客の増加の具体案について考えていくべきである。 ・前期の学生サミットは文京祭の実施内容の説明であり、教員が参加する意義がある。後期は、次年度の文京祭実行委員を紹介する内容。日程も直前に決まる。開催の必要がないと考える ・祭りを盛り上げるような挨拶をする ・食事系ではなく、デザート系のキッチンカーに限定するなど学生食堂企業と調整を図りながら、ガイダンス期間に集中して誘致し、学期中にも誘致する回数を増やす。</p>
<p>【目標】 危機管理マニュアル(学生編)の制定 【具体的な方法】 学生部と危機管理委員会との連携 【KPI】 規程の完成</p>	<p>100%</p> <p>・危機管理マニュアル(学生編)について、リスク管理委員会の承認をとり、規定化した。</p>	<p>・規程を作成した</p> <p>危機管理マニュアル(学生編)</p>	<p>・規程のブラッシュアップを行う</p>

2024年 学生部(全学学生委員会)

PLAN(計画)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p> <p>【目標】 社会状況の変化に応じながら、学生の生活に必要な経済的支援と生活における収支の見直しを啓蒙する。 【具体的な方法】 奨学金情報の収集、整理、発信、効果的な学生への周知方法を検討・実施 マルチ商法の危険性について全新生に理解させる。 文化教養講座でのFP講座実施 【KPI】 経済的困窮による退学者(除籍者)数の減少</p>
<p>【目標】 学生会(部・同好会)等課外活動を活性化し、トラブルなく実施させる。 【具体的な方法】 学生会を支援し、新入生歓迎会等による部・同好会の入部促進 学生自治会等の学内委員会に多くの新入生の参加を促す。 学生間でのノウハウ継承を支援する。 【KPI】 部・同好会入会者数の増加</p>
<p>【目標】 学園祭を活性化し、学生の活動を地域社会に示す。 学生サミットを開催し、学生にとっての学園祭をより意義のあるものにする。 【具体的な方法】 キッチンカーを誘致し、学生や研究室による出展促進、参加促進のための支援として、配置や環境の整備を検討。 地域を巻き込んだイベントを企画して地域のパートナーであることをアピール。 100周年のイベントであることも意識し学生との意見交換の場を設け、学生の満足度の高い学園祭を実施する。 学生食堂と十分に連携し、双方が納得する企画を立てる。 【KPI】 学園祭の来場者数の増加 出展による参加者数の増加</p>
<p>【目標】 対人援助職を養成するキャンパスとしての教育的側面をより強化する。 【具体的な方法】 感染症対策の啓発活動の実施 【KPI】 保健室利用者の減少</p>

2023年 学生部(全学学生委員会)(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)	CHECK(評価)	ACITON(次への改善)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p> <p>【目標】 学内での不法行為、危険行為を未然に防止する。 【具体的な方法】 禁煙に関する啓発活動の実施 違反者に対する個別指導の実施 喫煙所の利用に関するマナー利用方法の改善をづづけてゆく キャンパスは全面禁煙について検討を続ける 近隣への迷惑行為を防止するだけでなく、文京学院生としてのマナーを示すことで本学のイメージアップをはかる 【KPI】 禁煙指導の多角化(健康面、経済面、学習面) クレーム数の減少</p>	<p>D:計画を実行しその効果を測定する。</p> <p>実施状況(実施率)</p> <p>100%</p> <p>・特定屋外喫煙場所の設置により、学外でのトラブルは大幅に減少した。 ・一部の喫煙者のマナー違反(吸殻のポイ捨て等)があったため、巡回・音声ガイダンス・防犯カメラの設置などの対策を講じた。 ・禁煙指導について、引き続き検討した。 ・未成年飲酒や文京区の条例に反する喫煙をした場合、当該学生に見せる、あるいは渡す「停学の可能性を示唆するチラシ」を作成した。 ・向丘1丁目遊び場と向かい側にあるセブンイレブンの使用状況に注意した。 ・学生専用の簡易喫煙所の設置場所をD館入口脇として提案した。 ・学生の処分に関わる規程の改定を時代に合わせて行った。</p>	<p>C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。</p> <p>評価</p> <p>・キャンパス周辺のトラブルは減少したものの、無断駐車やゴミのポイ捨てが見られる。このことに対して、十分な対応策を見いだせなかった。 ・5月6月になって、問題行動を起こす学生らしき人が、遊び場とセブンイレブンに来なくなった。4月以外では、9月に1回だけ、夜に騒いでいたという近隣住民からの通報があった。 ・喫煙所の増設はされなかった。東館のほうには1つも無い状況である。学内の喫煙所の喫煙マナーの悪さが報告されている。 ・規程の改定後、運用の実績は無い ・本郷キャンパスでは2022年度5月～6月にかけて1ヶ月で17件近隣の迷惑行為・喫煙の通報がみられたが2023年度は大幅に減少。</p>	<p>ACITON(次への改善)</p> <p>A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる</p> <p>・キャンパス周辺の学生の行動実態をより詳細に把握する必要がある。他大学のアイデアなどを参考にして対応策を検討したい。 ・授業開始前のガイダンス期間にセブンイレブン周辺や向丘一丁目公園で学生が騒がないように、キッチンカー等を誘致する。 ・停学の可能性をほめかす原稿を作成して学生委員会のTeamsチームにアップしてある。抑止力を期待できるので、問題行動を起こした学生にその場で渡す。 ・喫煙所の増設場所を引き続き検討する。学内喫煙所のマナー改善について引き続き検討する。</p>
<p>【目標】 学生生活アンケートを継続して実施し、学生からの多くの情報を入手して学生支援に活かす。 【具体的な方法】 調査結果の新たな活用(KPI、二次使用、FD等)。アンケート項目の継続的検討を図り、学生生活に関する多様な情報を入手できるように努力する。 【KPI】 活用数の増加</p>	<p>100%</p> <p>・学生生活アンケートの実施時期、方法、設問内容を再検討し、学生や授業運営に過度な負担とならないような調査へと改善を行った。 ・調査結果の活用については引き続き、検討を行う。 ・学生の負担軽減を行う手立てとして、複数のアンケートをとりまとめた。</p>	<p>2022学生生活に関する意識調査案内</p> <p>・学生生活アンケートを修学状況調査と合わせて実施するとともに、設問内容を精査・縮減し、学生や授業運営にとって負担の軽減となった。 ・調査回数が1回となったこと、回答に要する時間が8分程度と大幅に減少となった。 今年度は調査負担の軽減を優先したため、調査結果の活用については継続課題となった。 調査の回答所要時間: 2022年度20分→2023年度12分</p>	<p>・2023年度に実施した内容を踏襲し、負担を軽減した、持続可能な調査方法を継続する。調査結果の活用については、授業やFDなどでの活用を検討していく。</p>

2024年 学生部(全学学生委員会)

PLAN(計画)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p> <p>【目標】 キャンパス内外における、学生としてのマナー遵守を強化する。 【具体的な方法】 授業外の学生とコミュニケーション作りのために、喫煙所やキャンパス周辺の見回りを導入し、学生を見かけたときに積極的に声をかける。 違反者に対して、本人の意見も十分に聴く機会を設けて個別指導を実施する。 禁煙指導を多角的に行う(健康面、経済面、学習面)。 効果的な学生への周知方法を検討する。 東キャンパス、西キャンパスでの喫煙所追加設置を検討する。喫煙所を増やすことにより、致命的な火災につながりかねない部室内での喫煙を減らす。 【KPI】 学生による問題行動の減少。近隣住民からのクレーム数(ゼ口)。喫煙所周辺でのポイ捨ての減少。</p>
<p>【目標】 すべての学生が満足度の高い学生生活を送る。 【具体的な方法】 キッチンカーを誘致する機会を増やすなどして、学生の食生活の充実を支援する。 学生の居場所について、現状を調査し、改善が必要な問題点を明らかにする。 【KPI】 キッチンカー誘致数の増加(30回以上) 学生の満足度+5%</p>
<p>【目標】 学生生活アンケートを継続して実施し、学生からの多くの情報を入手して学生支援に活かす。 【具体的な方法】 設問内容の精査 【KPI】 回答率の向上</p>